

JCMA 関西

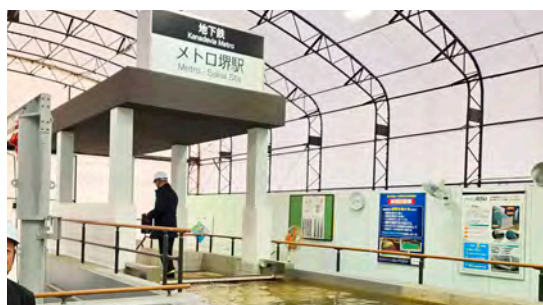
Japan Construction Machinery and Construction Association, Kansai Branch Office

JCMA 関西 春号

巻頭言



特集



JCMA
ICT施工検定試験・
合格者更新
講習会



意見交換会
新しい建機展を
訪ねて
現場見学会



新入会員
支部行事報告
編集後記

01 巻頭言
「魅力ある建設業の実現に向けて」

02 特集
「工場見学(カナデビア)
防災ソリューション
ラボラトリーの見学」

03 建設施工研修会
04 JCMA ICT施工検定試験・合格者更新講習会
05 建設技術展近畿2025
06 ふれあい土木展2025
07 新しい建機展を訪ねて
08 官民意見交換会
09 広報部会「現場見学会」
10 新入会員
11 関西支部行事報告
12 編集後記

124
Spring
2026

魅力ある建設業の実現に向けて

近畿地方整備局 施工企画課長 菊池 弘



国土交通省では、人手不足が深刻化する建設業界の働き方改革や生産性向上を実現するため、i-Construction2.0の三つの柱である「施工のオートメーション化」「データ連携のオートメーション化」「施工管理のオートメーション化」の取組を推進しています。自動施工、遠隔操作、BIM/CIM、AIなどの先進技術活用で施工管理・安全管理を飛躍的に向上させ、2040年度までに生産性を1.5倍向上、3割の省人化を目指しています。2025年度からは土工、河川浚渫工、港湾浚渫工にICT施工を原則適用とし、その上で工種単位でのICT施工から、ICT施工で取得するデータを工事全体で活用し、工程の見直し・無駄の削減・人員配置の効率化を図り、さらなる現場の生産性向上を目指すICT施工StageⅡの取組を進めています。

近畿地方整備局管内の現場においてもICT機械による施工だけではなく、運搬を行うダンプトラックも含めたりアルタイムの「位置情報」「稼働情報」「施工履歴」のデータを取得・活用によりダンプトラック台数の見直しを行い、積込作業の待機時間の解消、作業日数の短縮の実現など「工事全体の最適化」も実現しています。「施工のオートメーション化」の自動化施工では、河川の河道掘削工事において掘削・積込の遠隔化と組み合わせたクローラダンプの現場内自動運搬や、ダム建設現場において、コンクリート製造設備への材料供給、打設部位毎により異なるコンクリート配合、打設場所へのコンクリート運搬までの一連の工程を自動化させ、打設サイクルタイムの向上による効率化、現場作業を減らすことによる安全性の向上の取組の他、最近では足場工・型枠工といった施工プロセスが不要となる建設用3Dプリ

ント埋設型枠技術のコンクリート構造物への適用に向けても取り組んでいます。

また、近畿地方整備局では、インフラ分野のDXにも積極的に取り組んでおり、「近畿インフラDXアクションプログラム」において具体的な取組を実施しています。取組の一例として、BIM/CIM活用による業務等の効率化をはじめ、AIを活用した災害時の異常検知やドローンを活用した河川・道路の施設管理の効率化など、施策の目指す姿とアプローチを明確にして取組を進めています。

こういったi-Construction2.0やDXを推進するためには、デジタル技術を活用できる人材育成も重要であることから発注者・施工者である官民の人材育成支援・担い手確保に向けた研修にも力を入れており、近畿インフラDX推進センターにおいて、ICT施工、BIM/CIM研修、「施工のオートメーション化」の基礎となる無人化施工研修を行っています。建設業を魅力ある産業に変えるためには、これらの取組を国、府県そして地方自治体へと裾野を拡げて行くことが重要です。研修には2025年は618人が受講し、2026年も引き続き行う予定としています。

建設現場を取り巻く環境として、人口減少に伴う建設現場の労働力不足、甚大化する自然災害の増加やインフラの老朽化という課題に対し、建設業の果たす役割は益々大きく、建設業は地域の守り手として、なくてはならない存在であり、DXも活用し魅力ある建設業の実現に向けて引き続き取り組んで参りますので、今後とも会員の皆様のご協力を賜りますようお願い申し上げます。



工場見学(カナデビア) 防災ソリューションラボラトリーの見学

一般社団法人 日本建設機械施工協会「JCMA 関西」編集委員

関西地域において、昨年は大きな災害が無かったものの、近年のゲリラ豪雨や南海トラフ地震といった自然災害にも備えていかなければいけない。

名古屋の地下駐車場の浸水も記憶に新しいところですが、地方自治体等では、ハザードマップ等を作成し、住民等に意識をもってもらうよう配布されています。

また、南海トラフ地震では、大阪府で最大5～10mの津波浸水深が想定されています。地下街への流入には、止水板等による対策がありますが、止水板は非常に有効なハード対策ですが、運用上の限界などがあります。今回、ハード対策において、新たな技術を体験できるJCMAの会員企業であるカナデビア株式会社(旧:日立造船株)様のご協力を賜り、カナデビア堺工場(大阪府堺市)の中にある「防災ソリューションラボラトリー」(略称:防災ラボ)の見学を行いました。

カナデビア株式会社様は、2024年10月1日に日立造船株から社名変更した企業になります。

主な事業としては、ごみ焼却発電施設、水処理、脱炭素技術(メタネーション、水素)などの社会インフラ事業となっております。

今回、視察させて頂いた「防災ラボ」にある設備は、災害対策設備である「neo Rise」です。

「neoRise」は浸水に伴う浮力を利用し、自動で閉鎖する浸水対策設備です。無動力で操作不要のため来襲

する浸水にも確実に対応します。更にシンプルな構造でセンサー等電気機器も使用しないため故障しにくく、維持管理に優れ、防潮堤開口部に設置されている陸閘、ビルや地下街への出入口の防水扉に最適である。

カナデビア株式会社としては、無動力・人為操作不要・無電源の水門を制作し、更に構造はいたってシンプルで且つ安全・安心・安価なシステムで構築されております。



無動力フラップゲートの稼働状況について

次に浸水状況と無動力で止水するのを写真で見てください。

- ① レンガの道から徐々に浸水してきました。右側が歩道やビルの入り口です。



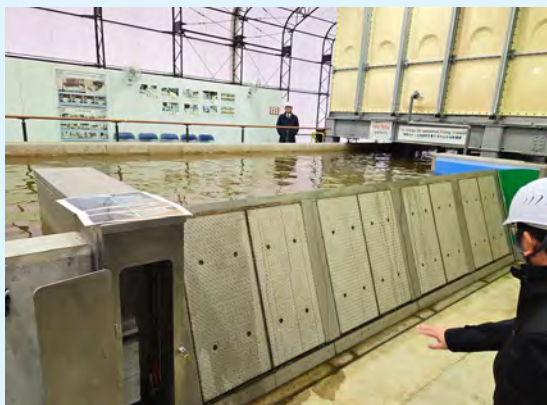
- ② 徐々に浸水が増えてきた状況で、フラップゲートが無動力で浸水深さに合わせて閉められている状況です。歩道側が浸水していないのがわかります。



- ③ さらに浸水量が増えた状況で、全閉状態になったところです。地下鉄の入口にもフラップゲートがあり地下への侵入も防いでいます。



- ④ 歩道側から見た状況で、止水しているのがわかります。



2011年の東北地方太平洋沖地震後、防潮堤への信頼や安心感という防潮堤に対する住民の認識が津波からの避難意思決定に影響を与えた可能性についての指摘があったとも言われており、今後30年以内に高い確率で南海トラフ地震が発生すると公表されており甚大な被害が想定されている中、津波防護施設には住民の避難時間を稼ぐという減災効果が期待されるようです。

近年、大地震による津波や豪雨による浸水などの被害が深刻化しており、災害に強い街づくりが急務となっております。今回、この防災ラボの施設見学させて頂き、水害のあまりにも早いスピードに驚かされました。私たちは防災について日頃からの備えや意識することで、災害から身を守るためには個人として何をするか?どう行動するか?を考えることが非常に大切であるということを痛感させられました。

最後に

今回見学会に際して、ご尽力頂きましたカナデビア株式会社・社会インフラ事業本部の皆様には本当に感謝申し上げます。この「NEO RISE」の技術が世の中にもっと認知・普及することで、人々の暮らしがより安全安心な社会になることを祈念しております。

令和7年度建設施工研修会開催

第1部 事例発表 第2部 第57回建設施工映画会

建設施工研修会は、令和7年10月15日（水）、建設交流館8階グリーンホールにおいて開催しました。参加者は76名であった。

第1部 事例発表では、国土交通省 近畿地方整備局企画部 建設情報・施工高度化技調整官 武本 昌仁氏より「インフラ分野のDXからi-Construction2.0を目指して」と題して、建設現場を取り巻く背景・課題、建設現場の生産性向上、施工管理のオートメーション化について、講演をいただきました。「ハード面、ソフト面ともに今後いろいろな課題に取り組んでいく必要性を感じた」、「人が少なくなっていく中、こういった取り組みを実施していくことの大切さ」、「将来像が見えてきた」などの言葉が寄せられた。

第2部 建設施工映画会では、急速な高齢化と人口減少による建設業の担い手不足に対応すべくデジタル技術活用等の紹介として、危険な現場から離れ、オフィスから安全に重機操作を行う技術・3Dモデルを活用し、施工効率と情報共有を大幅に向上させる技術・現場作業の省人化、品質の安定化のプレキャスト化による生産性向上技術等、建設施工に係る25編を上映しました。



写真-1 第1部



写真-2 第2部

表-1 第2部 第57回建設施工映画会上映作品一覧

NO.	上映作品	提供者	NO.	上映作品	提供者
1	K-DIVE® ～次の遠隔現場は「林業」～	コベルコ建機(株)	14	重機レーザー計測システムと共有データ環境R-CDEの連携	(株)フジタ
2	水素燃料電池ショベル 試作機を開発	コベルコ建機(株)	15	全自動現場巡視ドローンと現場点検アプリの連携	(株)フジタ
3	SK160BR-7 Blade Runner[商品紹介]	コベルコ建機(株)	16	鉄道高架橋のプレキャスト化への取り組み	鉄建建設(株)
4	VisionLink® Productivityを使ったCat® グレード3D機能のご紹介	キャタピラー(株)	17	シーコム工法(SeaComb Method) ～形鋼材を用いた複合構造橋脚～	五洋建設(株)
5	BIM/CIM活用:軽量盛土工法でやってみた!	福井コンピューター(株)	18	『A4CSEL in NARUSE 自動化施工システムによる「現場の工場化」』	鹿島建設(株)
6	小規模工事におけるICT活用～小型ICTバックホウによる作業土工～	サイテック(株)	19	『A4CSEL 造成工事への本格適用を開始』	鹿島建設(株)
7	TLS Kinematic App ～地上型レーザーの新たな運用手法～	リーグル(株)	20	『山岳トンネルの自動化施工システム「A4CSEL for Tunnel」が完成!』	鹿島建設(株)
8	圧入の自動化・遠隔化の取り組み	技研製作所	21	『一車線規制で床版取替が可能な「スマート床版更新(SDR)システム」を開発』	鹿島建設(株)
9	圧入工法の現在	技研製作所	22	建築スマート生産現場紹介	鹿島建設(株)
10	RED HILL 1967	技研製作所	23	新型マニピュレータ溶接ロボット	鹿島建設(株)
11	機械式駐輪場「エコサイクル™」～地上に文化を、地下に機能を～	技研製作所	24	スカイランナーApollo ,スカイテーブルDiana	レンタルのニッケン(株)
12	災害対策工法「圧入」～能登半島地震復旧工事～	技研製作所	25	柵とバリケード	レンタルのニッケン(株)
13	地盤改良機遠隔施工技術	(株)不動テトラ			

「JCMA ICT 施工検定試験・合格者更新講習会」開催

JCMA ICT 施工検定試験・合格者更新講習会

(一社)日本建設機械施工協会(JCMA)の情報化施工委員会 i-Construction 普及 WG では、国交省が推進している i-Construction をより広く普及させるため、JCMA ICT 施工 検定試験を実施し、ICT 活用工事に関する正しい顧客説明が可能な人材の育成に努めています。JCMA では、i-Construction 施工の普及促進を目的として、JCMA 標準テキストの説明者を認定する試験と更新講習を行ってまいりました。

令和6年度より、試験の名称を「JCMA ICT 施工検定試験」に変更し、2年目となりました。

また、検定(認定)有効期間を定めました。検定有効期間を合格時及び講習受講時より3年となりました。

JCMA 標準テキストの説明者としての活動には、当年度の検定合格または過年度合格者は当年度の更新講習を受講が必要となります。更新講習を未受講のまま有効期間を超えた場合「失効」となり再受験が必要です。

今回の更新講習は、過年度の試験に合格した「ICT 施工検定試験合格者」を対象に「令和7年度版共通資料(JCMA 標準テキスト)」に関わる最新の動向・情報等を提示し、i-Construction のより一層の普及を目指して開催するものです。なお「令和7年度版共通資料(JCMA 標準テキスト)」を利用するにあたりましては、当該更新講習会に参加する事が必須となります。関西支部におきましても開催しました。

検定合格 更新有効期間(新規の場合)

R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13
合格	更新	更新	更新	更新	更新	更新
	未更新	未更新	未更新	失効		
	未更新	更新	未更新	未更新	未更新	失効

検定合格 更新有効期間(R7以前合格の場合) R3以前合格は失効

R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10
未更新	未更新	未更新	更新			
更新	未更新	未更新	未更新	失効		
	更新	未更新	未更新	未更新	失効	



ICT施工検定試験

- ・開催日時:10月21日(火)10:00~12:00
- ・開催場所:エル・おおさか 南1023号室
- ・受験者数:59名

受験資格は、JCMAの会員(グループ会社等は含まない)であること。試験科目は、以下の7科目で、70%以上の正解に達した場合にその科目は合格とし、認定書が発行されます。

- ・「i-ConstructionとICT活用工事」
- ・「TS,GNSS計測」
- ・「UAV,LS計測」
- ・「ICT建設機械(「施工履歴データ」の範囲含む)」
- ・「ICT土工」
- ・「ICT舗装工」
- ・「3次元データ」

合格者更新講習会

- ・開催日時:10月21日(火)13:30~15:30
- ・開催場所:エル・おおさか 南1023号室
- ・受講者数:80名

合格者更新講習会は、主に国交省が新規に策定する要領等の最新の情報・動向の提供・周知等を目的として行うもので、対象者は、説明者試験の合格者(全科目、及び一部科目合格者)となっています。

講習会では、「令和7年度版共通資料テキスト」をふまえた最新の動向・情報等を提示し、より一層のi-Construction普及を目指して開催するものです。なお、「令和7年度版共通資料テキスト」を活用するにあたりましては、当該更新講習に参加することが必須となります。

「建設技術展 2025 近畿」開催



2日間で17,000人超えの来場者

「ええもん（技術）使こて、ええもん創ろ！」をテーマに「建設技術展 2025 年近畿」（主催：日刊建設工業新聞社、（一社）近畿建設協会）が10月30日（木）、31日（金）の両日、大阪市住之江区のインテックス大阪で開催されました。今回は239の企業・団体・学校などが出展し、ブース数が282となりました。

技術展では、技術の紹介だけではなく最新の話題が得られる催しや講演会も開催されました。特に建設業における次世代を担う若手技術者の確保のため、土木関連凝塊を代表する産・官の業種による学生のためのキャリア支援なども行われました。

開会式では、主催者の谷本光司近畿建設協会理事長らの挨拶に続き、齋藤博之近畿地方整備局長の来賓挨拶などが行われました。



谷本近畿建設協会理事長



齋藤近畿地方整備局長

会場では、生産性の向上や働き方改革に寄与する新技術や新工法が紹介され、橋梁模型製作コンテストやインフラ DDX コンペ等も行われました。



写真-1 橋梁模型製作コンテスト 表彰

【会場制作部門】

賞名	受賞者名	チーム名
最優秀賞	高知県立高知工業高等学校 定時制	YKS
優秀賞	阪神高速道路株式会社	みちリングEx
	中央復建コンサルタンツ株式会社	Team-CFK
審査員特別賞	橿原市	Kashihara いざ 参らん
	国土交通省 近畿地方整備局 京都国道事務所	はんなり組
	本州四国連絡橋高速道路株式会社	架けうどん

建設技術展は、民間企業が開発した新技術・新工法を展示・紹介し、産・学・官の交流を行うことで、これまで培われてきた建設技術のより一層の高度化やより広範囲な技術開発の促進へと繋げ、新技術の各工事への積極的な活用を促すことを目的に開催されています。

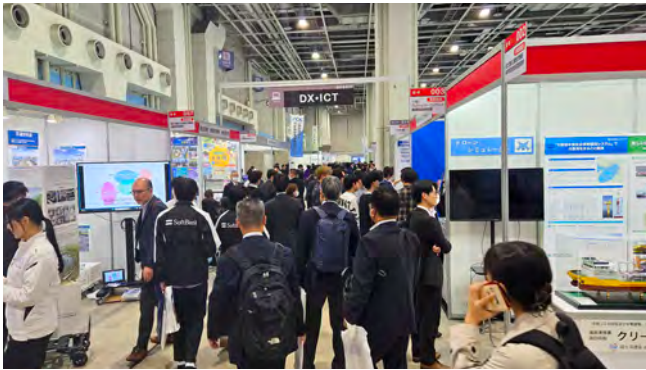


写真-2 会場風景 DX・ICT

関西支部では、昨年同様に ICT 施工、DX（デジタルトランスフォーメーション）の普及をテーマに LiDAR センサーを活用した 3 次元レーザー測量アプリの実演と無人化施工を動画でご紹介させて頂き多くの方が興味を示して頂きました。

3 次元測量といえば、レーザースキャナーやドローンが主流になっておりますが、狭隘部や端部などのレーザースキャナーやドローンで測量が出来ない箇所が発生することもあると思います。

関西支部も出展しました!!

今回も実演していた 3 次元測量アプリはスマートフォンやタブレットに内蔵されている LiDAR センサーでレーザー測量を行い 3 次元データとして保存します。

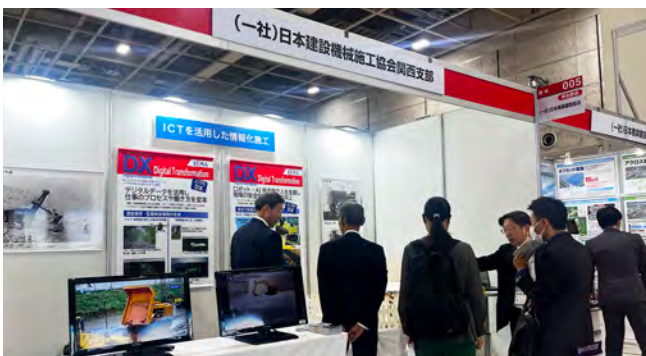


写真-3 JCMA 出展

3 次元測量アプリで計測したデータをレーザースキャナーなどで測量した既存の 3 次元データと結合すれば今まで測量が出来なかった場所の 3 次元データを補完出来ると考えております。

アプリでのレーザー測量の方法は、スマートフォンやタブレットを使用し動画撮影と同じ要領で測量したい箇所をゆっくりと撮影します。

記録した測量データはメールで送信し、メール受信したデータをパソコンで点群処理ソフトへ取込み、活用して頂くかたちとなります。

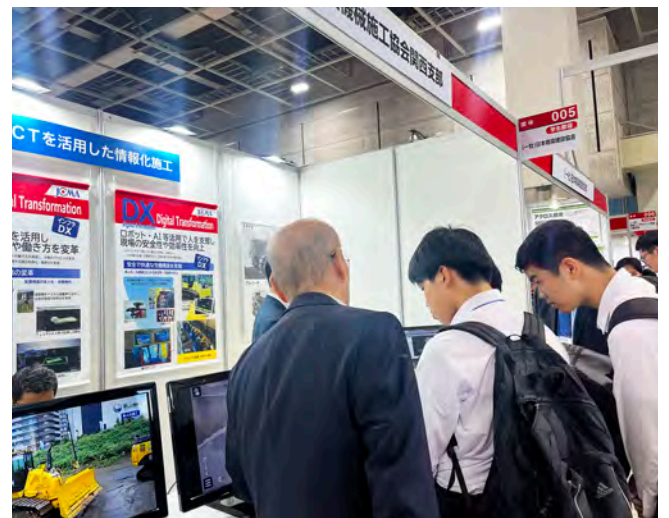


写真-4 学生見学

会場ブースではパソコンのモニターで測量した点群データを見て頂くとともに別のモニターでは建設現場をイメージしたモデルに AR 拡張現実を活用した設計データを実際のカメラ画像に重ね併せて施工完成のイメージ共有を体験頂きました。

またブース内の別モニターでは昨今、多発している自然災害、特に土砂災害現場有人では危険な場所での作業などに活用されている無人化施工のデモンストレーション映像を見て頂き、建設業界の現況と今後の更なる技術開発への展望、生産性の向上に向けた取組みなどを説明致しました。

本年より JCMA ブースでは「学生歓迎」の案内板を掲示していることもあり、工業高校、専門学校、大学の学生も来場され、熱心に 3 次元点群データの話しを聞くとともに興味も示してくれておりました。

「ふれあい土木展2025」

2日間で2,634人、過去最高!!

「未来を創る土木のチカラ～ようこそ!土木のテーマパークへ～」をテーマに、2025年11月14日(金)、15日(土)、国土交通省近技術事務所主催の「ふれあい土木展2025」が開催されました。今回は29団体、53ブースが出展されました。会場には暮らしを支える土木技術や建設機械が展示され、地元の小学生の見学もあり、晴天での開催となりました。2日間で2,634名の来場者があり、過去最高の来場者となりました。



関西支部も出展しました!!

関西支部では、日立建機日本株式会社様、西尾レントール株式会社様、日本ロード・メンテナンス株式会社様に参画いただきました。

建設技術展 2025 近畿と同様に ICT 施工、DX (デジタルトランスフォーメーション) の普及をテーマに本年も 3D レーザースキャナの実演と無人化施工をイメージした建設機械シミュレータ体験、大型モニタで土砂災害や無人化施工の動画を展示しました。

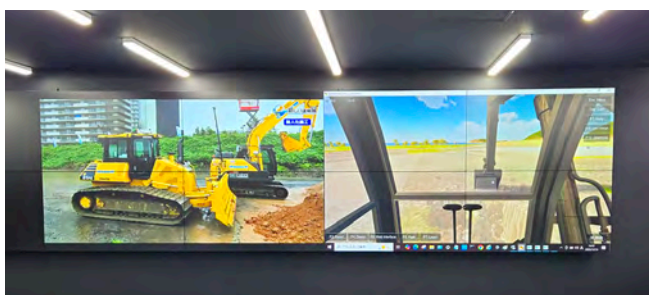


写真-1 建設機械シミュレータ

屋外展示では省人化対策機械の認定されている「チルトローテータ」や「ホイローダ」、橋梁だけでなく遮音壁の点検も可能な「ロードマルチ点検車」の実機を展示し来場頂いた方々に、普段近くで見ることが出来ない建設機械と共に写真撮影、特に「チルトローテータ」では若手オペレータによるデモンストレーションもありお子様に大変人気でした。



写真-2 ホイローダ

「チルトローテータ」は油圧ショベルの先端に取り付けするアタッチメントになり、360度回転することにより作業の効率化や省人化につながる機械となっています。



写真-3 ミニショベル (チルトローテータ)

従来の機械では、法面成形などの作業で機械の向きや場所を移動することが多く、「チルトローテータ」を使用することにより機械を移動させずにその場で行える作業が格段に増え省人化に加え、カーボンニュートラルのCO2削減にも寄与しています。

大型車両をベースとした「ロードマルチ点検車」や「ジェットスイーパー」は迫力もあり来場者の目を引く展示に加え本年は車両のステッカーやパーパクラフトも配布、従来の橋梁点検車とは異なり高い遮音壁の点検も行えることから普段は高速道路で活躍しており、近くで見ることの出来ない機械でもあり大変人気を集めていました。



写真-4 ロードマルチ点検車



写真-5 ジェットスイーパー

国土交通省 近畿地方整備局の様々な出展なかで近畿技術事務所のブースでは、河川の点検業務をクイズ形式で楽しめるゲームや、ドローンのシミュレータで飛行ゲームを体験、3D プリンタで建設機械の模型などを実演、配布をしていました。



写真-6 ペーパークラフト配布



今年も天候が良く 11 月 15 日（土）には、近畿地方整備局の防災ヘリコプタ「きんき号」が午前中に着陸し展示、多くの来場者を楽しませておりました。

屋内展示も大盛況！！

屋内展示ではセミナールームの大型モニタを活用し建設機械のシミュレータで遠隔操縦体験や、無人化施工、土砂災害の映像や点群データで建設業界における災害時の対応や取組みを説明しました。



写真-7 屋内展示状況

また、3D レーザースキャナで測量した点群データやドローンで撮影した画像より生成した点群データを活用し建設業界の DX（デジタルトランスフォーメーション）について取組みや活用事例を説明しました。



写真-8 点群データ体験

建設技術展と同様に建設業界における担い手不足の課題もあり、次世代の担い手となる若い世代へ業界全体として PR を行っていければと考えます。

「新しい建機展2025」訪ねて

今回の「訪ねてシリーズ」は当会員である西尾レントオール株式会社様が主催した大阪メトロ様の森之宮車両工場跡地を会場とした「新しい建機展 2025 ～ミライ建機ランド～」を11月28日に視察しました。

主催の西尾レントオール株式会社以外にも18者の企業・学校・団体が参画してブースを出展。自動運転や遠隔操作、AI制御搭載型の建機などの建設DXや、蓄電池や電動化などGXを加速させる最先端技術を見て・触れて・学べる趣向を凝らしたイベントとなっています。

個人的に驚いたのは油圧ショベル1台にチルトローテータと呼ばれるバケット傾斜回転機能を搭載したバックホウの展示があり、様々なアタッチメントが取付可能になっている建設機械は今後さらなる用途拡大に期待がもてます。



写真-1 チルトローテータ搭載バックホウ

会場ではそのチルトローテータ搭載バックホウによる巨大砂アートパフォーマンスも実演され、繊細な動作も可能にした操作性も披露され、来場者を驚かせていました。



写真-2 巨大砂アートパフォーマンス『飛行機』

他にも建設用3Dプリンタによるリアルタイム出力披露や、鉄筋結束とロボットによる結束作業実演など、最先端建機の実機を用いた実演が多くあり、進化をこの目で実感できたことは貴重な経験となりました。また、家族向けの体験ゾーンも多く、次世代を担う学生や子どもたちへ建設業の魅力を楽しく、わかりやすく学び、体験できるテーマパークには多くの家族連れで賑わっていました。



写真-3 おどる建機などの体験ゾーン



この展示会は3日間で8,800人の来場があり大盛況のなかで幕を閉じましたが、建設業界の新しい可能性を探る絶好の機会であり、参加者は建設機械や建設業の未来を学び、次の時代を支える“つくる力”を体感することができました。



写真-4 エントランスにて

「官民意見交換会」を開催

近畿地方整備局との意見交換会

令和7年12月9日（火）、大阪キャッスルホテルにおいて、近畿地方整備局と（一社）日本建設機械施工協会関西支部及び（一社）河川ポンプ施設技術協会との合同で土木機械設備の取組みに関して意見交換会を開催しました。出席者は、近畿地方整備局が野坂周子企画部長以下12名、協会側からは深川良一支部長以下21名、河川ポンプ施設技術協会からは宮武一郎理事以下15名の出席がありました。



写真-1 企画部長挨拶

会議の冒頭では、野坂周子企画部長から「11月28日に補正予算が発表され、公共事業関係費が初めて2兆円を超え、国土強靱化予算をしっかり確保していきたい。近畿圏では大阪市の毛馬排水機場などをはじめ、地域の安全・安心を守るインフラが機械設備に支えられている。これらを次代に継承するため、皆様と良好な関係を築きあげながら事業を進めていきたい」と挨拶がありました。

深川支部長からは「日頃の思いや要望を聞いていただける貴重な機会。今回の機会を積極的に活用していきたい」と挨拶がありました。



写真-2 支部長挨拶



写真-3 意見交換の様子

今年度の意見交換会は以下のテーマで行いました。「社会インフラ整備関係予算の継続的な確保」「入札・契約制度」「働き方改革」等について意見交換が行われました。

主な意見・要望

- ・工事発注量が減っていくと、技術力の継承が困難になるため、継続的な発注量の確保してほしい。
- ・修繕工事は、既存の構造物の状況など現場制約が多い。工事内容に即した工期設定をして欲しい。
- ・会社では、製作工場を有しているから、設計・製作・据付など多岐にわたる技術力を蓄積することができる。企業のもっている技術力評価を高めてほしい。
- ・点検整備において、緊急出動や緊急の修繕などが、昼夜問わず生じ、担当技術者の負担が大きくなる。働き方改革の観点からも、軽減をすすめてほしい。

整備局から

- ・特に働き方改革では、点検における複数の連絡先を設けるなどの点検体制を確保することを出先事務所に周知することや特記仕様書でも適切な対応ができる環境の整備も明記する方針を示されました。



写真-4 河川ポンプ協会 理事挨拶

広報部会「現場見学会」

令和7年12月16日(火)、今年度の現場見学会は国土交通省近畿地方整備局近畿技術事務所で開催され、会員各社から23名が参加しました。

今回の見学会のテーマは【不具合堤防の見学】、【交通バリアフリー体験】です。

近畿防災・技術センター会議室で八千代エンジニアリング様より不具合堤防、近畿技術事務所様よりバリアフリーについての概要説明にて事前知識を得ることができました。

その後、現地にて2班に分かれ各々のテーマの実演を行いました。



写真-1 概要説明の様子

【不具合堤防の見学】では、河川内堤防や護岸に生じる様々な変状を再現した実物大模型(全国初)が展示され、5つのゾーン(A～E)に分けて様々な事象を見学でき、堤防、護岸の劣化診断の体験をさせていただきました。

普段私達が何気なく通行している堤防・護岸に亀裂、沈下、傾斜、タイルの浮きが生じていると将来的に内水氾濫(河川外地域の氾濫)がおき、市民生活に重大な影響がでることを学べたので意義のある体験ができました。

【交通バリアフリー体験】では、視覚障がい者用の点字設備、車椅子を使用して歩道を通行する体験する内容でした。

目隠し、白杖を用いて点字通路を100mほど通行しましたが、実演箇所には様々な工夫が施されていて数m進むのに怖さを感じました。特に点字通路のない横断歩道を歩くときは自分の立ち位置が分からず難儀しました。

次に車椅子を使用した実演では、歩道に2cmの段差、数%の横断勾配があるだけで車椅子の操作がしにくい、また進行方向の上り勾配では5%で何とか通行可、8%、12%になると自力では通行できず、介添者がいないとできない事、特に下り勾配では両手でブレーキをかけていないと自走してしまう怖さを知りました。また通路に凹凸があると車椅子の制御が難しくなることも分かり日常の歩行者通路整備の大切さを理解することが出来ました。

今回の交通バリアフリーを体験で優しい街づくり、介助の必要性が班員から同一の意見がでました。



写真-2 不具合堤防の見学



写真-3 交通バリアフリー体験

最後に参加者から質疑応答や活発な意見交換が飛び交う見学会となり、集合写真を撮って閉会しました。寒いなかでの見学会、大変お疲れさまでした。

新入会員紹介

エスケイハウス株式会社



会社概要

会社名：エスケイハウス株式会社

代表者：代表取締役 志摩敏樹

所在地：[本社] 京都府舞鶴市字上福井 117 番地

[京都工場] 京都府久世郡久御山町田井新荒見 230

設立：2014年11月

事業内容：ユニットハウスの製造・販売・リース
仮設ハウスの製造、販売、修理
仮設ハウスのリース事業
建築工事の設計施工、監理並びに請負
古物の売買業

会社紹介

弊社はユニットハウスの製造・販売・リースを中核に、修理・改造、仮設設備一式の提案、建築工事の設計施工・監理・請負、古物売買まで対応する総合メーカーです。京都府内に2拠点を構え、現場事務所・倉庫・宿舍から災害時の応急施設まで、用途に合わせたオーダーメイド設計・製造を得意としています。設立以来、大手メーカーへのOEM供給を通じて特注案件を多数手掛けてきました。高強度設計と厳格な品質管理で耐久性を追求し、断熱・設備・レイアウトまで細部を最適化します。さらにソーラーパネル・蓄電池の提案と施工にも強みを持ち、電源確保が必要な現場やBCP・災害対応で高い評価を得ています。今後は清掃ロボットの取り扱いも予定しており、省人化・効率化まで含めた提案領域を拡大中です。これらの取り組みを通じてお客様の現場や業務のDX推進にも貢献しています。

株式会社ガイアート関西支店



会社概要

代表者：支店長 松浦正幸

所在地：[関西支店] 〒550-0004 大阪府大阪市西区靱本町1-11-7 信濃橋三井ビルディング7階 TEL:06-6446-5880 FAX:06-6446-5881

[大阪北営業所] 〒566-0052 大阪府摂津市鳥飼本町3-4-41 TEL:072-654-4055 FAX:072-653-1797

[神戸営業所] 〒651-1243 兵庫県神戸市北区山田町下谷上芝6-2 TEL:078-586-5863 FAX:078-586-3100

[奈良営業所] 〒639-1031 奈良県大和郡山市今国府町6-9 TEL:0743-56-4020 FAX:0743-58-3391

[大阪南営業所] 〒594-1122 大阪府和泉市北田中町397 TEL:0725-92-1820 FAX:0725-92-1805

[摂津合材工場<破碎工場併設>] 〒566-0052 大阪府摂津市鳥飼本町2-8-11 TEL:072-654-4779 FAX:072-654-4105

[和泉合材工場] 〒594-1122 大阪府和泉市北田中町397 TEL:0725-92-1476 FAX:0725-92-0927

[奈良合材工場<破碎工場併設>] 〒639-1031 奈良県大和郡山市今国府町6-9 TEL:0743-56-4041 FAX:0743-56-8951

設立：1963年11月27日

創業：1938年

事業内容：舗装・土木、製品製造・販売、道路維持管理、社会インフラマネジメント

会社紹介

道路インフラの未来を支えるガイアートの取り組み

道路は人・モノ・情報をつなぐ不可欠なインフラであり、近年はその役割が防災や景観保護へと多様化しています。ガイアートは、長年培った高度な技術力で、道路から港湾、空港まで、安全で快適な暮らしを支えています。

事業の柱となるアスファルト混合物の製造・販売では、全国の工場ネットワークを活用。厳密な品質管理システムのもと、高品質な製品を安定供給しています。また、廃材のリサイクルや再生混合物の製造を通じ、環境に配慮した循環型社会の形成にも貢献しています。

さらに、自社で運営する「白糸ハイランドウェイ」を技術開発や維持管理ノウハウ蓄積のフィールドとして活用。地域と連携したイベント運営も行い、技術革新と地域創生の両面から社会の豊かさを追求しています。

高山建材興業株式会社



高山建材興業株式会社

会社概要

会社名：高山建材興業株式会社
代表者：高山義明
所在地：大阪府枚方市春日東町2丁目7-1
電話番号：TEL:072-858-5755/ FAX:072-858-1778
従業員：25名
営業所：[交野営業所] 交野市向井田3丁目85
 [京都営業所] 京都府京丹波町下山藤ヶ瀬35-2
建設業許可：一般建設業（知事許可 77671号）
 土木工事業、とび・土工工事業、舗装工事業、
 造園工事業、解体工事業、建築工事業
産業廃棄物：大阪府・滋賀県・京都府・兵庫県・奈良県・
収集運搬許可 和歌山県・愛知県・三重県・岡山県
所有重機：[重機] バックホウ30台・ブルドーザー・その他10台
 [車両] レーラー・大型15台・中・小型10台
事業内容：土木工事一式 重機土工工事
 建築基礎掘削工事 建設発生土処理
 宅地造成工事 一般貨物運送業
 外構工事 産業廃棄物収集運搬
 舗装工事 重機回送 建設副産物処理
 解体工事 建設資材販売

会社紹介

当社は、1970年に創業し、大阪府枚方市を拠点に、大阪府内をはじめ関西一円で各種工事に対応しています。

基礎土工事を中心に、重機工事、解体工事、土木造成工事・一般貨物輸送など、個人案件から大手ゼネコン案件まで、大小問わずさまざまな依頼を請け負っている建設会社です。

オペレーター一人ひとりの技量が高く些細な依頼も真摯に受け止め、可能な限りその期待を超える解決策を提案し実行しています。

また、ICTが普及する前からいち早く着目し、建築土木の現場にて導入し作業効率上がるように取り組みを行い、今後も新しいことにも挑戦しつつ、常に化する建設業界に柔軟に対応し、地域に還元していけるような経営を行ってまいります。

支部行事報告

支部行事報告（10月）

- 「建設技術展 2025 近畿」出展
 月 日：10月15日（木）
 場 所：建設交流館 グリーンホール
 参加者：76名
 内 容：近畿地方整備局におけるインフラ DX の普及推進について
 講 師：近畿地方整備局 武本昌仁
 企画部建設情報・施工高度化技術調整官
 第57回建設施工映画会
 K-DIVE® ~次の遠隔現場は「林業」~以下25編
- JCMA ICT 施工検定試験 合格者更新講習会
 月 日：10月21日（火）
 場 所：エル・おおさか
 参加者：検定試験59名、更新講習会80名
 内 容：令和7年度 JCMA ICT 施工 検定試験

および合格者更新講習

- 「建設技術展 2025 近畿」出展
 月 日：10月30日（木）、31日（金）
 場 所：インテックス大阪
 入場者：17,535人
 テーマ：「ICT 施工の普及促進」

支部行事報告（11月）

- 建設用電気設備特別専門委員会（第508回）
 月 日：11月7日（金）
 場 所：木場潟公園東園地 里山交流ハウス 会議室&Web
 ①競争法コンプライアンス規定、プライバシーポリシー確認
 ②前回議事録確認
 ③2025年度開催スケジュール変更提案
 ④JEM-TR236（建設工事用400V級電気設備施工指針）審議
- 企画部会
 月 日：10月21日（火）

支部行事報告

場 所：エル・おおさか
参加者：検定試験 59 名、更新講習会 80 名
内 容：令和 7 年度 JCMA ICT 施工 検定試験
および 合格者更新講習

■「建設技術展 2025 近畿」出展

月 日：11 月 12 日（水）
場 所：関西支部 会議室
出席者：松本清志企画部会長以下 3 名
議 題：①令和 7 年度上半期事業報告（案）・
 経理概況報告（案）について
 ②会員の推移
 ③10 月以降の各種行事等取り組み状況及び
 当面の行事等
 ④運営委員会等の予定

■「ふれあい土木展 2025」出展

月 日：11 月 14 日（金）、15 日（土）
場 所：近畿技術事務所
入場者：2,634 人
テーマ：①「ICT 施工の普及促進」
 ② ホイールローダの展示
 ③ ミニショベルの展示
 ④ ロードマルチ点検車の展示
 ⑤ ジェットスイーパーの展示

■運営委員会

月 日：11 月 18 日（火）
場 所：大阪キャッスルホテル
出席者：深川良一支部長以下 23 名
議 題：①令和 7 年度上半期事業報告
 ②令和 7 年度上半期経理概況報告
 ③その他

■広報部会

月 日：11 月 28 日（金）
場 所：森之宮車両工場跡地
出席者：木村泰男広報部会長以下 9 名
内 容：新しい建機展

支部行事報告（12 月）

■令和 7 年度施工技術報告会 第 2 回運営会議（WEB 会議）

月 日：12 月 1 日（月）
場 所：関西支部
参加者：児玉事務局長以下 10 名
内 容：令和 7 年度施工技術報告会の論文査読や
 役割分担等

■近畿地方整備局との意見交換会

月 日：12 月 9 日（月）
場 所：大阪キャッスルホテル
参加者：深川良一支部長以下 21 名
内 容：意見交換

■広報部会 現場見学会

月 日：12 月 16 日（火）
場 所：近畿地方整備局 近畿技術事務所

参加者：木村泰男広報部会長以下 23 名
内 容：研修用不具合提防の見学及び交通バリアフリー比較体験

■JCMA ICT 施工検定試験

月 日：12 月 17 日（水）
場 所：株式会社ワキタ
受検者：56 名

■建設用電気設備特別専門委員会（第 509 回）

月 日：12 月 17 日（木）
場 所：中央電気倶楽部 315 会議室&Web
議 題：①競争法コンプライアンス規定、プライバシーポリシー確認
 ②前回議事録確認
 ③令和 7 年度建設用電気設備特別専門
 委員会見学会 報告
 ④JEM-TR236(建設工事用 400 V 級電気
 設備施工指針) 審議

■広報部会

月 日：12 月 18 日（火）
場 所：カナデビア堺工場
出席者：木村泰男広報部会長以下 6 名
内 容：防災ソリューションラボラトリー見学

支部行事報告（1 月）

■JCMA ICT 施工検定試験

月 日：1 月 19 日（月）
場 所：日立建機日本株式会社
受検者：35 名

支部行事報告（2 月）

■建設部会・リース・レンタル部会合同見学会

月 日：2 月 9 日（月）
場 所：株式会社大林組 西日本ロボティクスセンター
参加者：瀬戸部会長、橋本部会長以下 29 名
内 容：安全体感施設及び建機スタジアムの見学

■広報部会

月 日：2 月 10 日（火）
場 所：関西支部
出席者：木村泰男広報部会長以下 5 名
議 題：①「JCMA 関西」第 124 号について
 ② 今後行事予定の確認

■令和 7 年度 施工技術報告会

月 日：2 月 12 日（木）
場 所：建設交流館 グリーンホール
参加者：125 名
内 容：①千里丘陵における硬質地盤のシールド掘進報告
 ②泥水式シールドトンネルの急速施工及び水中到達
 ③プレストレスの消費期
 ④損壊した水力発電所導水路トンネルの復旧工事
 ⑤万博アクセスルート整備に向けた河川内橋脚工事
 ⑥鋭敏粘土層直下での安全安心なシールド掘進
 ⑦ヘッドマウントディスプレイによる重機遠隔操作
 ⑧土砂圧送注水自動管理システムの開発と実用化

編集後記

2026年の干支は、丙午（ひのえうま）で「情熱や変化を象徴し、エネルギーに満ちた年」です。

古来では、この年は「あまりにも力が強すぎる」と、恐れられておりましたが現代においては、この強大なパワーこそが停滞した現状を打破する最大の武器とも考えられるのではないのでしょうか。

昨年のお阪・関西万博では来場者が約2,558万人、関係者も含めると約2,902万人が会場を訪れ、「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに様々な技術や世界各国の方々との交流を通じて、持続可能な社会や国際社会との共創を、実感することが出来たのではないのでしょうか。

2026年に入り会場施設の解体も徐々に進んできており、今後はIR（統合型リゾート）の建設に向けて、大阪・関西万博同様に関西圏の活気が期待されます。

さて今回の特集は会員企業であるカナデビア株式会社様の「防災ソリューション ラボラトリー」の紹介です。

昨今、自然災害が多発しているなか「南海トラフ地震」の不安や懸念は皆様にもあるのではと感じています。

今回の見学では津波や洪水、内水氾濫などの水害時

に、無動力・人為操作不要・無電源の水門を体験しました。

過去の災害での経験や後悔が、より良い技術となり、持続可能な未来社会を形成していく一助になっていると感じこのような技術の発展が求められています。

また昨年につき、国土交通省 近畿技術事務所での「不具合堤防の点検施設」「交通バリアフリー体験施設」現場見学会では防災への意識や共創社会への関心が、参加された方もより高まったのではと感じております。

「丙午」の2026年は、変化を恐れずに停滞した現状を打破する情熱を持ち、皆様が強いエネルギーに満ちた飛躍の年になって頂けることを願っております。

最後にご多忙にも関わらずご執筆頂きました執筆者の皆様やご尽力頂きました関係者の皆様に心より厚く御礼申し上げます。

会員各社様におかれましては、施設の見学や特集にして頂きたい内容などが御座いましたら、事務局までご相談頂ければ幸いです。

今後ともご支援のご協力の程、お願い申し上げます。

編集部一同

原稿をお寄せください

『JCM A関西』に原稿をお寄せください。内容はなんでも結構です。

新機種・新工法の紹介、社内報の紹介、
随筆、川柳、提言、体験記、ご意見、 など…

送り先：一般社団法人 日本建設機械施工協会 関西支部



ておご
いま待感
す。ちし想
。す。を見



至天王寺 交通: 地下鉄谷町線天満橋駅④番出口より徒歩3分
京阪電車天満橋駅より徒歩5分

一般社団法人 **日本建設機械施工協会関西支部**

〒540-0012 大阪市中央区谷町 2-7-4 谷町スリースリースビル

TEL: 06 (6941) 8845

FAX: 06 (6941) 1378

e-mail : jcmakansai@jcma-kansai.jp

https://jcma-kansai.jp/